

全国の情報は国立感染症研究所感染症情報センターホームページにてご覧ください。 <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

定点把握感染症 (指定された医療機関から報告を求める感染症です)

インフルエンザ

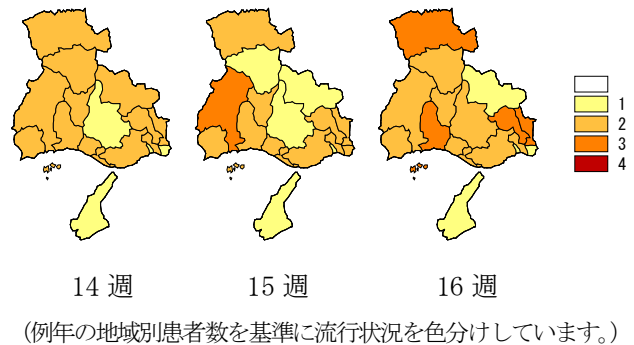
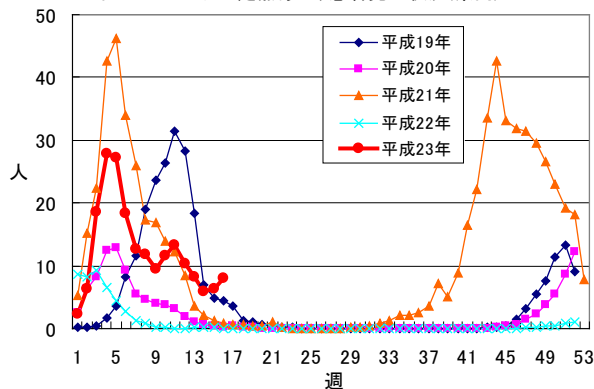
定点あたり患者数は今週 **7.97 人** (先週の 6.27 人) と 2 週連続で増加しました。地域的にみると、姫路市、伊丹、宝塚及び朝来の 4 保健所管内が定点あたり 10 人以上となっています。

全国的には、北海道、東京都、大阪府、福岡県などの 16 都道府県に警報レベルの保健所管内が、これ以外の 20 府県に注意報レベルの保健所管内があります。

兵庫県立健康生活科学研究所:健康生活科学研究センターは、今シーズン、これまでに 254 検体のインフルエンザウイルスを検出しています。その内訳は新型インフルエンザ (AH1pdm) 147 件 (58%)、A 香港型 (AH3 亜型) 72 件 (28%)、B 型 35 件 (14%) と、新型インフルエンザ (AH1pdm) が半数以上を占めていますが、4 月以降に検出された 21 検体では A 香港型 (AH3 亜型) 5 件 (23%)、B 型 17 件 (77%) と、大部分が B 型にシフトしています。

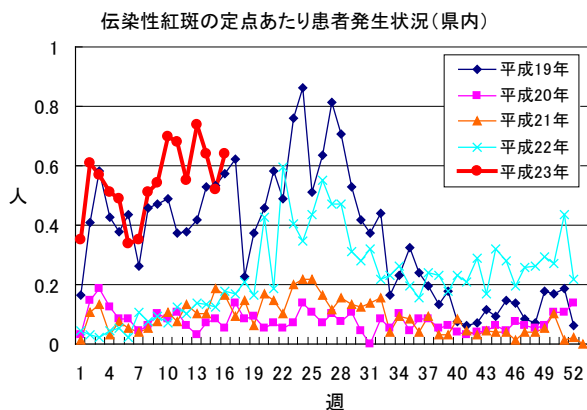
インフルエンザの予防として、手洗い、うがい、咳エチケットの励行、マスクの着用など、インフルエンザに罹らない、広げない対策が重要です。また、感染が疑われる場合は早めの受診が重要です。

インフルエンザの定点あたり患者発生状況(県内)



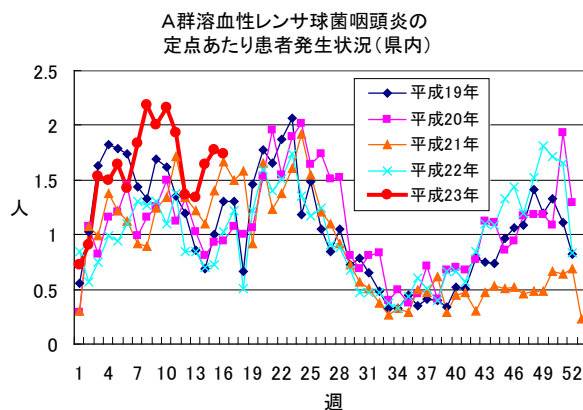
伝染性紅斑

定点あたり患者数は今週 **0.64 人**（先週は 0.52 人）と増加しました。例年に比べて患者数が多くなっています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点あたり患者数は今週 **1.74 人**（先週は 1.78 人）とわずかに減少しました。幼児、学童・生徒を中心に学校、家庭などの集団での発生が多く、注意が必要です。



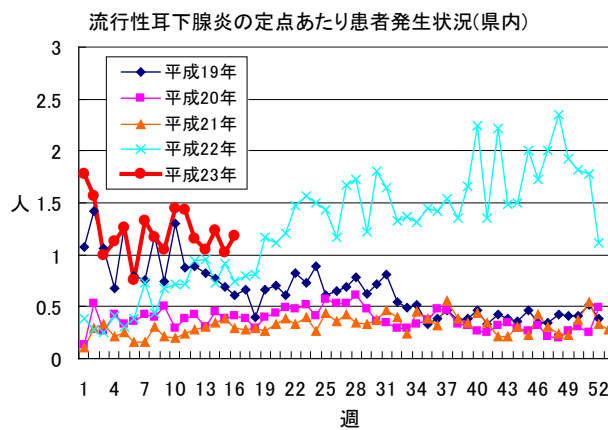
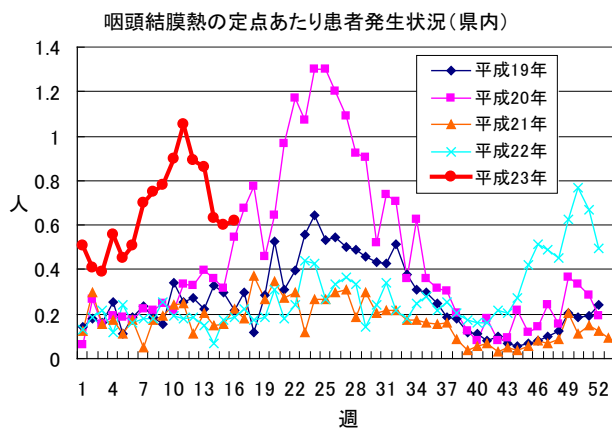
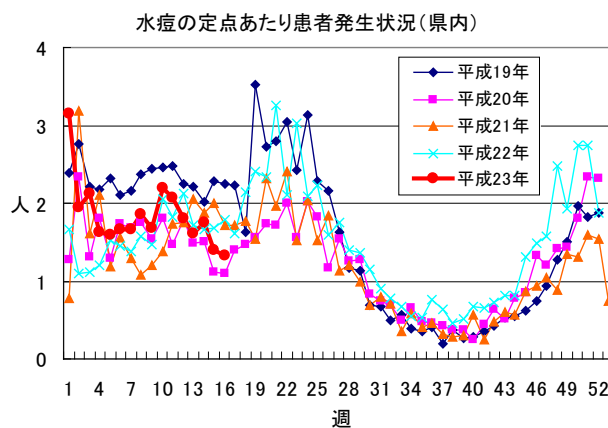
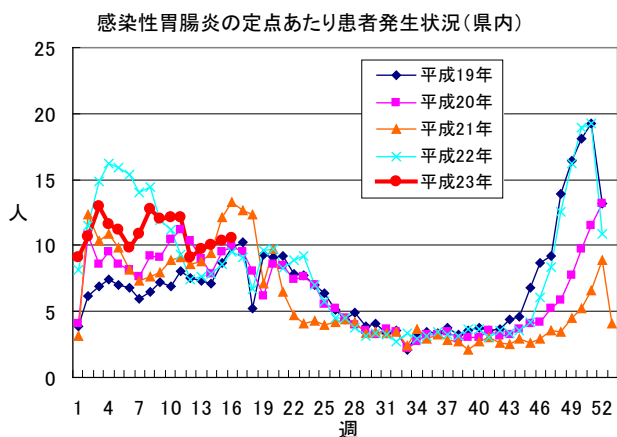
定点あたり患者数の上位 10 位の疾病

	疾病名	定点あたり患者数		増減		疾病名	定点あたり患者数		増減
		今週	先週				今週	先週	
1位	感染性胃腸炎	10.58	10.35	+0.23	6位	流行性角結膜炎	0.89	0.57	+0.32
2位	インフルエンザ	7.97	6.27	+1.70	7位	伝染性紅斑	0.64	0.52	+0.12
3位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.74	1.78	-0.04	8位	咽頭結膜熱	0.62	0.60	+0.02
4位	水痘	1.33	1.40	-0.07	9位	突発性発しん	0.60	0.58	+0.02
5位	流行性耳下腺炎	1.18	1.02	+0.16	10位	RSウイルス感染症	0.18	0.15	+0.03

全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症です）

1類感染症	報告はありません。
2類感染症	結核 21名 （神戸市 16名、西宮市 1名、宝塚保健所管内 1名、明石保健所管内 1名、加東保健所管内 1名、赤穂保健所管内 1名）
3類感染症	報告はありません。
4類感染症	報告はありません。
5類感染症	アメーバ赤痢 1名 （神戸市；腸管アメーバ症 男性 60歳代 感染地域；兵庫県、感染経路；異性間性的接触）、 ジアルジア症 1名 （尼崎市；男性 50歳代 感染地域；兵庫県）
追加報告	結核 7名 （姫路市 2名、宝塚保健所管内 1名、加東保健所管内 1名、赤穂保健所管内 1名、洲本保健所管内 2名）、 アメーバ赤痢 1名 （加東保健所管内；腸管外アメーバ症 男性 40歳代 感染地域；兵庫県、感染経路；異性間性的接触）

目で見える動向（県内）



例年同時期と比較して患者数が多い。

例年同時期と比較して患者数が多い。

この週報は兵庫県立健康生活科学研究所：健康科学研究センターホームページ <http://www.hyogo-iphes.jp/> にも掲載しています。
 また、<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html> から国立感染症研究所感染症情報センターの週報（IDWR）がダウンロードできます。